

生徒たちの未来につなげる ミSSIONの 教育力

1885年の創立以来、「MISSION」の名で親しまれてきた北陸学院高等学校。キリスト教を土台とした建学の精神のもと、「心の教育」を柱に、MISSIONだからこそできる教育を行ってきた。

近年では受験者数・入学者数ともに大きな躍進をみせ、進学面でも安定した大学進学率を維持するなど、多くの注目を集めている。



北陸学院高等学校 教務課・情報科主任 教諭 東 豪 弥

INTERVIEW

電子黒板を活用した 効果的な授業スタイル

ICTで広がる 学びの可能性

国を挙げて教育のICT（情報通信技術）環境の整備が進められる中、MISSIONでは、いち早く全教室に電子黒板を設置するなど、ICTに対する先進的な取り組みが行われている。電子黒板の導入によって変わる授業スタイルや、生徒・教員それぞれに与える効果を、情報科担当の東豪弥教諭に聞いた。

電子黒板を上手に利用することで
わかりやすく、深みのある授業が生まれます。

教 育現場で進む 学習のICT活用

近年、国を挙げて教育現場におけるICT（情報通信技術）環境整備の推進が行われています。国が教育の情報化に力を入れる理由は、生徒が情報活用能力を身につけることが、将来さらに加速するICT社会を生きていくには必要不可欠、という認識があるからです。

また、教員がICTを効果的に活用した授業を行うことで、生徒の学習意識や学力を向上させることにもつながり、ICTによって生徒が「自ら学ぶ」主体性を養うことができる」と期待されています。こうした背景の中で、本校も国の指針に沿ったICTの推進に取り組んできました。

全 教室に設置された 電子黒板

本校では昨年の9月、全教室に電子黒板が設置されました。これは、県内では先進的な取り組みではないかと思えます。電子黒板は従来のプロジェクターのように、単に画像や映像を見せるものとは違い、デジタル教科書と併用することで、重要な箇所を拡大して見せて生徒の注目を集めたり、その場でポイントを書き込んだりなどできるため、授業の表現手法が大きく広がります。

本校に電子黒板が最初に導入されたのは2013年、卒業記念品として3台購入したことがはじまりです。翌年さらに3台を購入し、特別教室

用の機材として実験的に使用を開始しました。

当初は、まだ効果的な使用方法がわからず、不慣れなせいもあって、教員方からの評価はそれほど高いものはありませんでした。しかし、若手の教員を中心に電子黒板を使った授業実績を積み重ねていくうちに、ベテランの教員からも電子黒板の効果が高く評価する意見をいただくようになり、少しずつ理解が深まっていったように思います。

電 子黒板で変わる 授業スタイル

電子黒板を使うようになってから、生徒が下を向かなくなった、とよく言われます。これまで生徒はうつむきがちで集中力が続かないこともあったようですが、それが解消されました。今まで教員の話と板書で進められていた授業が、画像や動画などのビジュアル面の工夫が加わることで、授業内容への興味づけにもなります。さらに、重要な場面では印

をつけたり、ポイントを書き込んだりすることで、生徒の理解もスムーズに進むと感じています。

また、教員にとっては板書の手間が軽減されるため、授業に時間的な余裕が生まれたことも導入の成果です。これまで教員は、かなりの時間を板書に割かざるを得ませんでした。教科によっても異なりますが、板書の時間が省かれると、これまでと比較して授業時間が10分程度短縮されます。教員はその貴重な10分を、授業をさらに進めることにも使えますし、理解を深めることにも使えます。授業の定着度を確保するための小テストを行うことも可能でしょう。実際生徒からも、電子黒板を使用した授業については、わかりやすいという声や、より内容に興味を抱くようになったというポジティブな声が聞こえています。

いずれにしても電子黒板の導入によっても、教員にとっても生徒にとっても、ゆとりのある授業が可能になったと思います。

授 業内容にふさわしい 効果的な利用を選択

電子黒板などのICT機器は、使いこなすことが目的ではありません。あくまでも学校全体で教育内容を向上させる、つまり、生徒にとってわかりやすく、深みのある授業を行うことが目的です。ICT機器はそのための道具です。ですから、毎時間どの教科も電子黒板を使い続けているわけではありません。電子黒板と従来の黒板を併用したり、従来の黒板だけを使って行う授業もあります。要するに教員は、その授業内容にふさわしい効果がある利用の仕方を選択しています。

本校の教育方針は「勉強プラスもうひとつ」。ICTも活用した授業によって、学習への理解が深まれば、生徒が「もうひとつ」に注げる時間も余裕も大きくなります。ICTがこうしたところにも貢献できるとすれば、情報担当教諭としてこれほどうれしいことはありません。



PROFILE

1956年生まれ。石川県出身。青山学院大学文学部英米文学科卒。卒業後、羽咋高等学校で講師を務めたのち、1981年より北陸学院高等学校へ。ICT環境整備推進の中心となる教務課・情報科主任を務める。



2014年秋より全教室に設置された電子黒板は、現在ほぼすべての授業で使用されている。生徒にとってより効果的な授業が展開できるように、教科ごとに日々研究を行っている。

特別進学コース 難関国公立大学への 進学を目指して

確かなサポート体制で、推薦入試はもちろん、センター試験を含む一般入試にも対応できるハイレベルなコース。同志社大学への特別推薦や有名私立大学の指定校推薦も充実しており、多様化する入学試験制度に対応しています。

総合進学コース* 主に推薦を利用した 多彩な進路に対応

主に推薦入試で4年制大学を目指すコース。全国のおよそ100大学に500名近い推薦枠を有し、北陸学院大学への特別推薦枠が充実しています。大学から就職まで幅広い進路の選択が可能なコースです。

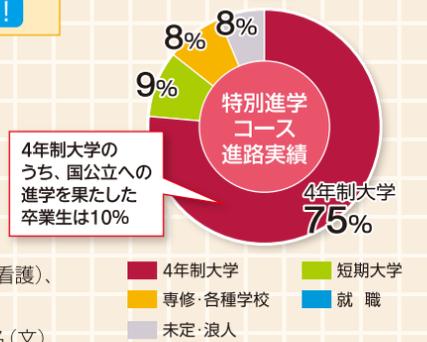
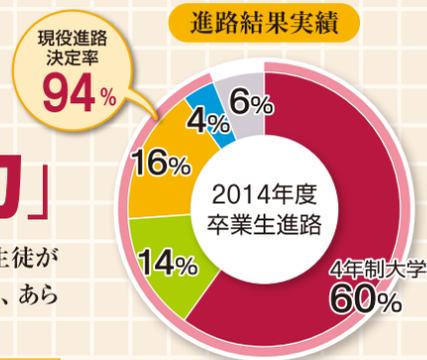
*選択科目によって理系大学や看護系の学校への進学も可能です。

主な進路イメージ

- 難関国公立大学
- 同志社大学
- 関西学院大学
- 青山学院大学
- 有名私立大学
- 私立大学
- 短期大学
- 専門学校
- 北陸学院大学への特別推薦枠

2015年度の大学入試結果から 合格実績で見る「進学力」

特別進学コースを中心に国公立志望の生徒が増加する中、10名（過年度含む）の生徒が国公立大学に合格。また、今年度は看護系や福祉系の学部を希望する生徒も目立ち、あらゆる入試スタイルを活用し、94%の生徒が希望する進路へと歩みを進めました。



2014年度卒業生4年制大学・短期大学等合格実績 **すべて現役合格!!**

特別進学コース

- 国公立大学** 金沢大2名(人文、学校教育)、富山大3名(工、人間発達、理)、石川県立大2名(生物資源環境)、石川県立看護大(看護)
- 私立大学** 北陸学院大2名(人間総合)、同志社大9名(社会、心理、神、スポーツ健康、政策、生命医科学、文化情報、文、法)、関西学院大6名(教育、経済、人間福祉、文、理工)、青山学院大(文)、金沢医科大(看護)、金沢学院大(文)、金沢工業大6名(環境・建築、情報フロンティア、バイオ・化学)、金沢星稜大2名(経済)、岐阜経済大(経営)、京都産業大3名(経済)、京都女子大2名(文)、京都橘大2名(現代ビジネス、文)、京都ノートルダム女子大(人間文化)、金城大3名(看護)、神戸女学院大2名(文)、国立音楽大(音楽)、埼玉医科大(保健医療)、仁愛大(人間生活)、聖心女子大(文)、玉川大(農)、中部大2名(経営情報、国際関係)、中部学院大(人間社会)、中大(経営)、東京女子大(現代教養)、東洋英和女学院大(国際社会)、新潟医療福祉大(医療技術)、広島国際大(医療福祉)、北陸大(未来創造)、明治学院大2名(国際、社会)、龍谷大3名(経済、文、国際)
- 短期大学** 北陸学院大学短期大学部5名、青山学院女子短期大学、小松短期大学2名、女子栄養大学短期大学部、富山福祉短期大学2名

総合進学コース

- 私立大学** 北陸学院大11名(人間総合)、愛知淑徳大(メディアプロデューサー)、大阪学院大3名(経営、経済)、金沢学院大2名(経営情報、スポーツ健康)、金沢工業大2名(工)、金沢星稜大3名(経済、人間科学)、京都造形芸術大(芸術)、金城大4名(社会福祉、看護、医療健康)、相模女子大(人間社会)、作新学院大2名(人間文化)、上武大(ビジネス情報)、鈴鹿医療科学大(保健衛生)、名古屋外国語大(外国語)、名古屋商科大(商)、日本大(国際関係)、日本社会事業大(社会福祉)、阪南大2名(経済)、フェリス学院大2名(文、国際交流)、福井工業大(環境情報)、北翔大(教育文化)、北陸大2名(未来創造)、明治学院大(社会)、名城大(法)、四日市大(総合政策)
- 短期大学** 北陸学院大学短期大学部11名、金沢星稜大学女子短期大学部3名、関西外国語大学短期大学部、金城大学短期大学部、富山福祉短期大学、福井医療短期大学

参考：過年度生の合格実績(2015年度) 北海道大(歯)、横浜国立大(教育人間)、慶応義塾大(総合政策)、東京経済大(国際社会)、立教大(現代心理)

学校・入試説明会のお知らせ

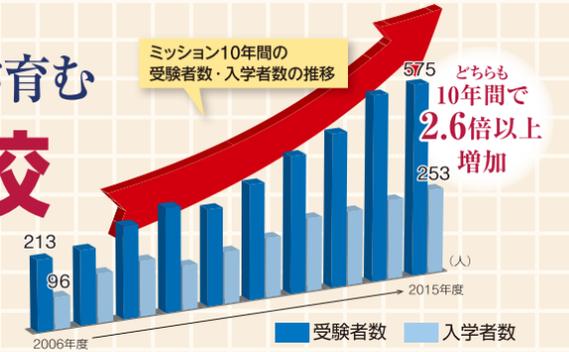
北陸学院高等学校	
11月21日(土)	学校・入試説明会①
11月28日(土)	学校・入試説明会②
12月5日(土)	学校・入試説明会③
北陸学院中学校	
10月24日(土)	入試問題解説会



※詳しくは、本校にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。



少子化の時代にあって、この10年間で受験者数・入学者数ともに大きく躍進した北陸学院高等学校(ミッション)。ミッションが「選ばれる学校」としてますますの進化を見せる理由を、データで明らかにします。



DATA.1

どのような教育方針ですか？



「勉強プラスもうひとつ」でバランス良い学校生活

部活動や学校行事など、生徒達には、その時期にしかできない経験を積んでほしいというのが基本的な考え方。2つのコースどちらの生徒も、勉強と「もうひとつ」を両立させながら、人間的に成長し、一般入試と推薦入試を併用して進学を果たすのがミッション流の受験スタイルです。

DATA.2

数多くの指定校推薦枠があるってホント？



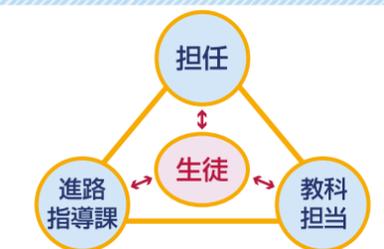
同志社大学・関西学院大学・青山学院大学への近道

同志社大学に12名、関西学院大学に16名、青山学院大学に7名の推薦枠を有しており、県内でこれらの大学に最も近い高校といえます。ほかにも全国およそ100大学・約500名の指定校推薦枠もあり、幅広い選択肢の中から将来を指すことができます。

※推薦枠は今後変更になる場合があります。詳細は本校までお問い合わせください。

DATA.3

進路指導はどのように進めていますか？



教員が一体となり取り組むオーダーメイドの進路指導

入学時より実践的な講習会を開催したり、面談を重視したりなど、生徒の志望を尊重しながら、きめ細やかな進路指導を進めています。そして、生徒たちが3年間で培った実力を発揮し、難関大学への進学から就職までの幅広い進路の実現ができるように、教員が一丸となってサポートします。